

## 第17回環境情報科学センター賞 受賞者

### 学術論文奨励賞

受賞者：有賀 健高 氏  
(石川県立大学／現 埼玉大学経済学部)

対象業績：福島第一原子力発電所事故と風評被害に関する  
一連の研究



#### 【受賞理由】

原子力発電所事故とそれによる風評被害という一般的にも専門的にも関心の高いテーマについて、環境意識と食品購買に着目し日常生活と地域経済の関連性に展開しながら、取り組まれた研究である。インターネットによる消費者アンケート結果にもとづき、環境経済学的手法を用いた検討、考察がなされている。

テーマのユニークさ、タイムリーな内容、消費者側からの風評被害へのアプローチ、既往研究の検証など、独創性、有用性は高いものと考えられる。一連の研究成果として書籍を含み、手法の説明などでもわかりやすい記述がされており、幅広い読者の参考になるものと思われる。

また、一回のアンケート結果を多様な視点で分析したものであるが、環境意識と利他的行動、支援行動との関係性などについてはより詳細な検討や解析が望まれるところであり、著者の研究の今後の発展が期待される。

以上の理由から、「環境情報科学論文集」に掲載された1編を含む3件の研究論文、著書は、環境情報科学センター賞の学術論文奨励賞として十分値するものと判断する。

#### <対象論文>

- ①有賀健高 (2014) 環境意識の高い消費者は福島原子力発電所近辺の食品購入に積極的なのか—消費者アンケート調査からの検証. 環境情報科学学術研究論文集 28, pp. 223~226, 環境情報科学センター, 東京.
- ②Kentaka, ARUGA (2016) Consumer responses to food produced near the Fukushima nuclear plant. Environmental Economics and Policy Studies, DOI\*10.1007/s10018-016-0169-y.
- ③有賀健高 (2016) 風評被害と原発事故—食品の放射能汚染に対する消費者意識. 昭和堂. レミアムとその規定要因. フードシステム研究, 22 (3), 287~292.